

第 12 回名古屋大学ホームカミングデイを開催

第 12 回名古屋大学ホームカミングデイが、10 月 15 日（土）、東山キャンパス及び大幸キャンパスにおいて開催されました。当日は、一日を通して気持ちの良い秋晴れとなり、日中は汗ばむほどの陽気となりました。

ホームカミングデイには、「故郷に帰る」という意味が込められており、同窓生が母校に集うだけでなく、在学生の家族や教職員、OB、地域の方々も「大家族」として、本学との絆を深めていただくための交流の場として、平成 17 年から毎年 10 月の第 3 土曜日に開催しています。

今年は、大学院経済学研究科を中心部局とし、メインテーマは昨年の『持続可能社会の実現に向けて』に続き、『環境と経済が共存する持続可能社会の実現に向けて』としました。

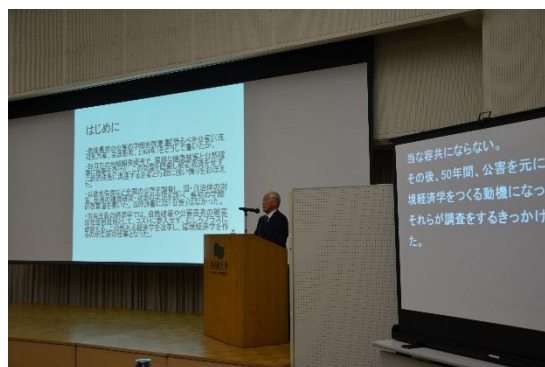


当日の運営は、本部の職員とともに、名大祭本部実行委員会、TEDxNagoyaU 実行委員会及びサッカー部に所属する学生が、来場者への応対、駐車整理などの業務にあたり、各部局においても、職員と学生が行事を運営し、同窓生や在学生の保護者の皆様をお迎えしました。

当日は、約 4,300 名の来場者が足を運び、来場者記念品として、ホームカミングデイガイドブック等の入った特製のお土産バッグと、「ミネラルウォーター・名大ラベル」を配付しました。

■ 学術講演「アジアへ日本公害史の教訓を－公害は終わらない－」

午前中には、豊田講堂シンポジオンホールにおいて、平成 28 年日本学士院賞を受賞され、元滋賀大学長、大阪市立大学・滋賀大学名誉教授であり、昭和 28 年経済学部卒業である宮本憲一先生が、「アジアへ日本公害史の教訓を－公害は終わらない－」と題して学術講演を行いました。約 170 名の来場者に、会場はほぼ満席となりました。総合司会は経済学部 2 年生の管なな子さんが務め、第 2 部を平成 10 年経済学部卒業生である若狭敬一 CBC テレビアナウンサーが務めました。第 1 部は基調講演、第 2 部を討論会形式とし、討論者には、宮本先生に加え、昭和 49 年経済学部卒業生である南川秀樹元環境省事務次官、昭和 56 年大学院工学研究科修了である阿部眞一トヨタ自動車株式会社 HV システム制御開発部長及び薛 進





軍大学院経済学研究科教授を招き、環境と経済について討論しました。

本講演会では、今年4月の「障害者差別解消法」を受け、聴覚障害を持つ方々向けに要約筆記を実施しました。第1部、第2部共に、筆記者が講師の話のを要約し、文字をスクリーンに投影する形式をとりました。

また、関連企画として、豊田講堂ホワイエでは、大学院経済学研究科及び宮本先生の研究紹介、経済学部OBによるガラス作品展示等を行い、多数の方が足を運びました。

■名古屋大学の集い

午後から、豊田講堂ホールにおいて、卒業後10周年、20周年、30周年、40周年、50周年を迎えた周年同窓生の方や、抽選で当選された一般の方を迎え、「名古屋大学の集い」を開催しました。平成14年情報文化学部卒業生であるNHK名古屋放送局の若月弘一郎アナウンサーが司会進行を務めました。はじめに、松尾総長、豊田章一郎全学同窓会会長から挨拶があり、次いで、伊藤義人全学同窓会代表幹事から、全学同窓会の活動報告が行われました。続く「名古屋大学国際交流貢献顕彰授与式」では、リザル アファンディ ルクマン名古屋大学全学同窓会インドネシア支部長、ジャミラ モハマド マレーシア・マラヤ大学日本語講師、ヤン イトウ上海大学教授の3名に、国際的な取り組みに対する功績を称え、表彰状と記念品が授与されました。



休憩を挟み、引き続き、名古屋フィルハーモニー交響楽団によるコンサートを行いました。指揮者には太田 弦氏、ソリストにはヴァイオリニストの島田真千子氏を迎えました。太田氏は、平成27年第17回東京国際音楽コンクール（指揮）第2位を受賞し、これからの活躍に大きな注目が集まる期待の新進指揮者です。また、島田氏は愛知県出身のヴァイオリニストであり、

ヨーロッパを中心に活動された後、愛知県でも精力的に活躍され、多彩な演奏活動を展開しています。今回は、アンコールを含め、全4曲が披露されました。

また、午前中は、名古屋フィルハーモニー交響楽団による公開リハーサルを初めて実施しました。普段見ることのできない練習風景に、会場の来場者は興奮した面持ちでした。

■スタンプラリー

今回、初の試みとして、主要施設6カ所（赤崎記念研究館、減災館、ES総合館（2008ノーベル賞展示室）、野依記念物質科学研究館（ケミストリーギャラリー）、中央図書館、博物館・古川記念館）を巡るスタンプラリーを実施しました。主要施設6カ所のスタンプ押印を完了された方のうち、先着200名に「名大オリジナルマグカップ」と「参加記念証」を進呈するこのイベントには、多数の来場者が参加し、名大オリジナルマグカップの引き替えは正午過ぎには早々に終了するほど大盛況でした。また、参加者からは「スタンプラリーのお陰で大学の施設を見学することができた」などのお声をいただきました。



■名大生サークルによる活動紹介



シンポジオンホールでは、「名大観世会による能実演」、「NU MIRAI 2016 TALK」を開催しました。名大観世会は、OBも多数出演し、普段、あまり目にする事のない日本の伝統芸能の世界を披露しました。また、NU MIRAI 2016 TALKでは、4名の登壇者を迎え、

学生の見解や考えの発信を通して、「NU MIRAI」更には、未来の創造の手助けとなることをプレゼン

テーション方式で発表しました。また、全学教育棟北棟のPhonon Café Roomでは、「F&M 秋の大収穫祭 2016」を開催しました。生産者と消費者をつなぎたい、という想いで活動している学生団体の普段の活動の様子を紹介しました。

■施設公開「トランスフォーマティブ生命分子研究所（ITbM）」

昨年完成したトランスフォーマティブ生命分子研究所（ITbM）では、最新の施設を公開し、化学と生物学の融合研究を推進する研究所のパネル解説、実験装置などの展示を行いました。午後からは3回に分けて概要説明も行き、200名を超える来場者がありました。



■各種相談会



ナショナルイノベーションコンプレックス (NIC) 3階多世代共用スペースでは、男女共同参画室、学生相談総合センター、未来社会創造機構まちづくりプロジェクト、ビジネス人材育成センター (B-jin) の主催で、卒業生向けキャリア支援企画「名大パパ+ママカフェ」が開催されました。今回はパパにも対象を広げ、「職場の上司や同僚、ご近所さん子育てサポータ

ーにするヒント」をテーマに、同窓生同士の出会いの場を設け、グループ車座での座談会を開催しました。

ES 総合館 034 講義室で行われた「就活サポーターOB・OG プレゼンツ〜己を知ろう、働き方を知ろう」では、OB・OG と共に、自身のモチベーションとそのモチベーションにマッチした仕事を考えていく企画が行われました。



■体験企画「あかりんご隊科学実験『生命の秘密！DNA ってなあに!?!』、「名古屋グランパススクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室」



「あかりんご隊科学実験」及び「名古屋グランパススクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室」は、毎年人気の小学生向けの企画です。今年も、募集人数を超える申込みがありました。本学の理系女子学生で構成される「あかりんご隊」が、子どもたちに実験の楽しさを伝える企画を考え、今年のテーマを『生命の秘密！DNA ってなあに!?!』としました。野依記念学術交流

館1階カフェスペースにおいて、保護者の方に見守られながら、あかりんご隊が実験方法を説明し、子どもたち自身の手で、冷凍のブロッコリーを使った実験にチャレンジしました。

陸上競技場では、名古屋グランパススクールコーチの指導の下、サッカーの基本プレイを学び、ミニゲーム等を行いました。子どもたちだけでなく、保護者の方の笑い声もたくさん響き、広大な人工芝の上で思い切り身体を動かし、怪我もなく、親子のふれあいを楽しむ様子が見られ、大好評でした。



■見学ツアー「超高压電子顕微鏡施設」



未来材料・システム研究所による超高压電子顕微鏡施設見学ツアーも、毎年人気の企画であり、今年も約300名の申込みがありました。参加者は、地面からの高さが10mにもなる「反応科学超高压走査透過電子顕微鏡JEM-1000K RS」を間近に見ることができ、熱心に説明を聞いていました。

■中央図書館、博物館企画、大学文書資料室企画

中央図書館では、オープンライブラリーのほか、「旗本高木家の幕末」と題した秋季特別展を開催し、「高木家文書」の中から幕末期の資料を紹介しました。

博物館では、企画展「台湾 朱振南 書画の世界―書による日台文化交流と後藤新平の再評価」を開催しました。関連行事として、「書による日台文化交流」と題し、台湾と日本の書家による「書と水墨画」のパフォーマンスも実施しました。

豊田講堂補ホワイエでは、大学文書資料室・附属図書館医学部分館共催企画として、「名古屋大学創基145周年記念仮病院・仮医学校から名古屋帝国大学への道」のパネル展示を行いました。参加者は、本学の歴史が紹介された資料に興味深そうに見学していました。



■販売コーナー



豊田講堂南側ピロティの販売コーナーでは、本のリユース市、農産物の販売、大学生協による名大グッズ等の販売が行われました。毎年、販売開始前から行列ができる盛況ぶりである本のリユース市では、学術書等手に入りにくい図書が安価に入手できることもあり、今年も多くの方が本を購入していました。農産物の販売では、大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センターのある東郷フィールド内の大地で育てられた新鮮な野菜や果物、お米が販売されました。

大学生協による名大グッズ等の販売では、名大オリジナルマグカップや名大オリジナ

ルベジタブルカレーなどの新商品もラインナップに加わり、賑わいを見せていました。

■その他各学部・研究科主催行事等

各学部・研究科においては、市民公開講座、同窓会関係行事、在学生の保護者向け行事等が企画されました。

多彩な分野の講演タイトルが出揃った市民公開講座等は、現役の教員だけでなく、名誉教授や同窓生を講師に迎え、同窓生も一般の方も楽しめる講演内容の工夫が凝らされていました。

また、保護者向け行事では、各学部・研究科ごとに、教育・研究内容の紹介や進路・就職状況について説明があり、保護者からの質疑応答や個別相談も行われました。保護者向け行事に参加した方には、日頃、在学生が食べている大学生協の食事の提供も行いました。



参加された多数の方に楽しい一日を過ごしていただき、ホームカミングデイを通じて、本学との繋がりをより一層深めてもらうことが出来ました。来年も10月の第3土曜日(平成29年10月21日(土))に開催しますので、是非、お越しください。